

広島・長崎に原爆が投下されたことは誰もが知っている。しかし、戦後、アメリカの統治下にあった沖縄にアメリカの核兵器が配備され、極東最大の核拠点とされていたことを知っている人は多くない。NHKの取材で、沖縄が核戦争の瀬戸際にあった事実や知られざる事故の存在などが明らかになった。「抑止力」という大義名分のもと、核戦争の恐怖と縁を切ることができないでいる現代に、「沖縄と核」の歴史は何を問いかけているのだろうか。

# 沖縄と核

現代に何を  
問いかけているか？

とき

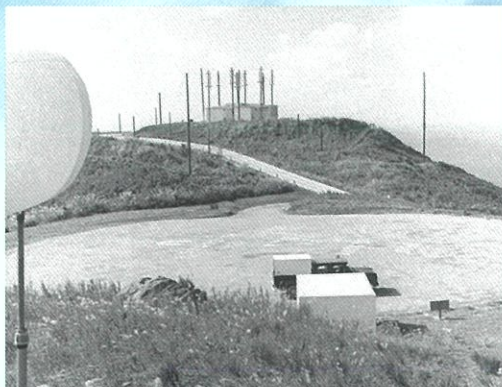
8月31日(土)  
午後3時～5時

ところ

プラザホープ

(和歌山市北出島1-5-47 電話：073-425-3335)

参加費無料 事前申込不要



沖縄嘉手納基地にて、第498戦術ミサイル隊のメースB第2拠点。(沖縄県公文書館所蔵)



占領地(日本) 沖縄、誘導ミサイルマーティンTM-76(組み立てと整備)地下発射基地でメースミサイルの作業をする技術者たち。沖縄。(沖縄県公文書館所蔵)

講師

松岡哲平氏

(NHK 広島放送局ディレクター)

【プロフィール】

1980年大阪府生まれ。2006年、京都大学大学院人間・環境学研究科卒業、NHKにディレクターとして入局。福岡局、報道局、沖縄局などを経て、2021年より広島局。主な番組に、NHKスペシャル「日航ジャンボ機事故 空白の16時間」、同「沖縄 空白の1年～基地の島、はこうして生まれた～」(「地方の時代」映像祭選奨)、同「スクープドキュメント 沖縄と核」(ギャラクシー賞優秀賞)など。

